

## 第 46 回埼玉県医学検査学会 おかげさまで無事終了いたしました

この度は 2018 年 12 月 2 日に開催された第 46 回埼玉県医学検査学会に 1,374 名と多くの皆様に参加いただき、大盛會に終わりましたことを心より御礼申し上げます。

今学会のテーマは臨床検査技師を取り巻く環境が急速に変わり各施設の対応が問われ、その変わる時代に取り組む道標となるよう扉を開けて一步前へ踏み出す意味を込めて『拓く』としました。またサブテーマは～手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって～と、それぞれのテーマに沿った学会企画で各分野のエキスパートの講師の皆様にご講演をお願いし、一步踏み出すヒント与えていただきました。

市民公開講演ではこれからの超高齢化社会問題を前回の学会同様取り上げ、日本成人病予防協会の安村禮子先生をお招きして『ぼける生き方、ぼけない生き方』と題して生活改善、健康管理について講演を行っていただきました。当日どのくらいの方が集まっていたのか不安でしたが、体験コーナーの血管年齢、物忘れの簡易検査では開始前よりお並びいただき、会場には一般市民の参加者が 200 名を超える大盛況となりました。講演後には会場から多くの質問もあり、これからの高齢化社会における介護、認知症問題への関心の高さを感じました。学会最後の癒し企画ではインマヌエルゴスペルクワイアの皆様による爽やかな歌声を披露していただき、会場と一体となって手を振りながら合唱と参加された皆様の海馬も刺激され満足されたのではと思います。

今回学会は企画段階においても、実行委員長を中心に今までの既定路線にとらわれず、扉を開け実行委員の負担軽減を目指し、特集号製本作成に費やしていた時間の軽減、Web 抄録の試み、発表スライド受付を記録媒体からメール送信に変更など、今までにないやり方で進めて参りました。また当日は書店の出店や各会場では椅子のみの配置で着席しやすくし、ネームホルダーの回収撤廃により撤収作業もスムーズに行うことも出来ました。結果としては全てにおいて良い方向に進み、煩雑な作業等が減り実務も軽減され、今後に繋がる一步を踏み出せたかと思っております。

最後になりますが、学会の開催にあたり、神山会長はじめ技師会理事、諸先輩の皆様、演題発表された埼臨技会員、賛助会員各社、研究班、実務委員、技師会事務関係各位の多くの皆様にご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第 46 回埼玉県医学検査学会  
学会長 鈴木 英之